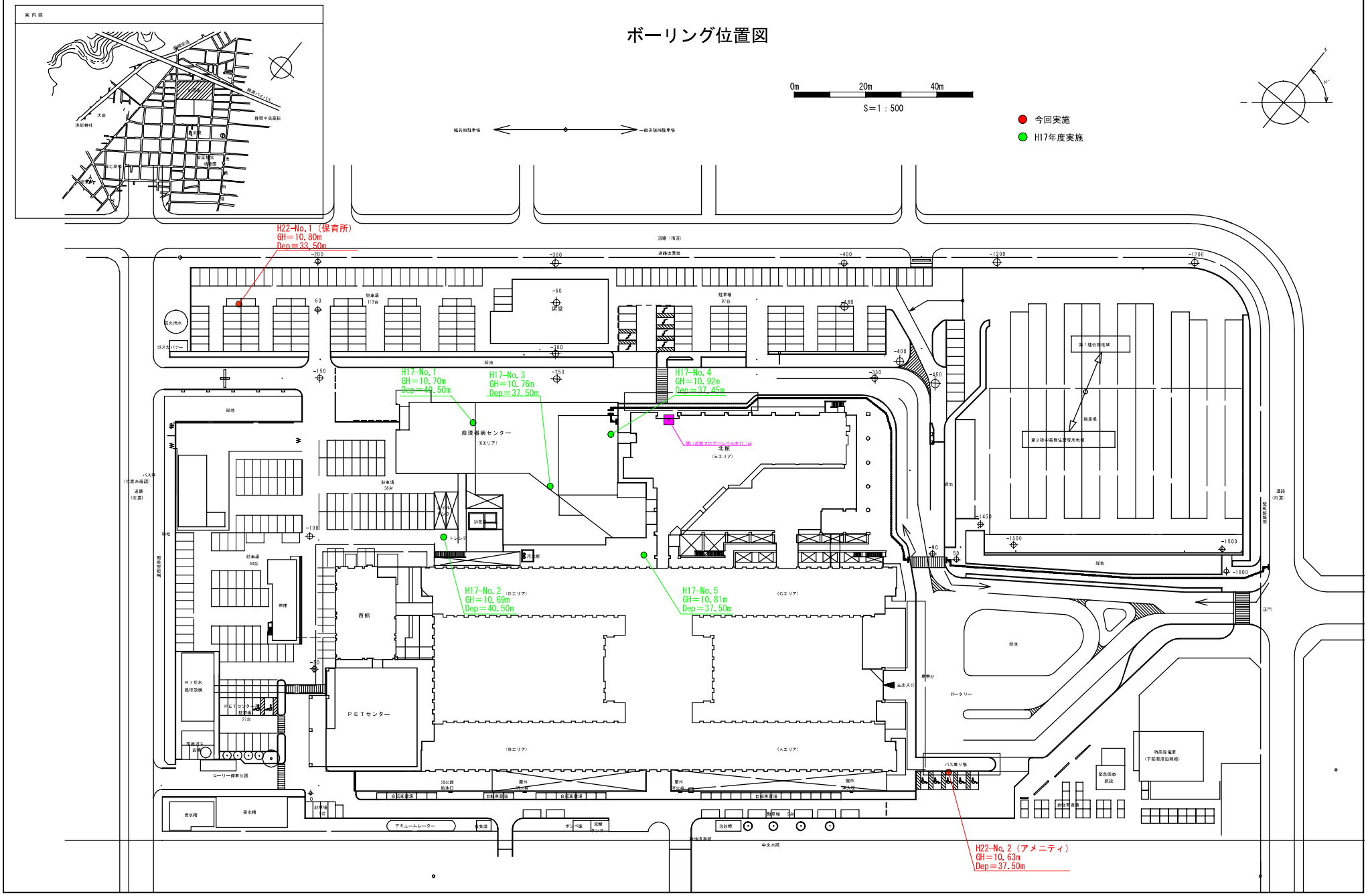
ボーリング位置図


案内図
0m 20m 40m
S＝1：500
今回実施
H17年度実施
H22-No.1（保育所）
GH＝10.80m
Dep＝33.50m
H17-No.1
GH＝10.70m
Dep＝49.50m
H17-No.3
GH＝10.76m
Dep＝37.50m
H17-No.4
GH＝10.92m
Dep＝37.45m
H17-No.2（Dエリア）
GH＝10.69m
Dep＝40.50m
H17-No.5
GH＝10.81m
Dep＝37.50m
H22-No.2（アメニティ）
GH＝10.63m
Dep＝37.50m
北館
（Eエリア）
西館
（Cエリア）
（Bエリア）
（Aエリア）
ＰＥＴセンター
ロータリー
正門

ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNo	

シートNo

ボーリング名	No.1（保育所）	調査位置	静岡市葵区北安東4丁目27番1号			北緯	35° 0' 12.2"
発注機関	地方独立行政法人静岡県立総合病院			調査期間	平成 23年 2月 19日 ～ 23年 2月 23日	東経	138° 23' 4.9"
調査業者名				現場代理人		コア鑑定者	ボーリング責任者
孔口標高	GH＝10.80m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 0°
総掘進長	33.50m	使用機種		試錐機	KR-100p	ハンマー落下用具	半自動落下装置
				エンジン	NFD-10	ポンプ	V-4

標尺(m)	標高(m)	層厚(m)	深度(m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
1	9.70	1.10	1.10		盛土	褐灰			地表3cmはアスファルト。以下シルト混じり砂礫。 礫はϕ2～30mm程度の亜円礫主体。 ϕmaxは50mm程度。
2	8.70	1.00	2.10		シルト混じり砂	暗灰	緩い		細砂主体。全体にシルトを少量混入する。
3	7.90	0.80	2.90		砂	暗灰	中ぐらい		細砂～中砂主体。ϕ20mm程度の亜円礫を部分的に少量混入。 シルトを全体に少量混入。
4	6.90	1.00	3.90		有機質シルト	暗灰		軟らかい	軟らかいシルト。未分解の有機物を多く混入し、部分的に腐植土状を呈する。
5	6.70	0.20	4.10		砂礫	暗灰			ϕ2～30mm程度の亜円礫主体。礫間充填物は細砂～粗砂。細粒分は少ない。
6	5.10	1.60	5.70		礫混じり砂	暗灰	中ぐらい		細砂～中砂主体。ϕ2～20mm程度の亜円礫を不規則に少量混入。 シルトを少量混入。
7	3.80	1.30	7.00		砂質シルト	暗灰		中位	やや軟らかいシルトを優勢とし、全体に細砂を多く混入する。 有機物を少量混入。
8	2.30	1.50	8.50		有機質土	黒褐		軟らかい	分解の進んだ腐植土に未分解の有機物を多く混入する。 下部はシルトが多くなる。
9	0.20	2.10	10.60		砂質シルト	暗灰		中位～硬い	やや軟らかいシルトを優勢とし、細砂を全体に多く混入する。 有機物を少量混入する。
11	-0.70	0.90	11.50		有機質土	黒		軟らかい	分解の進んだ腐植土に未分解の有機物を多く混入する。
12	-2.00	1.30	12.80		砂礫	暗灰	密な		ϕ2～30mm程度の亜円礫主体。礫間充填物は中砂～粗砂が目立つ。細粒分は少ない。
13	-2.40	0.40	13.20		シルト	暗灰			やや硬いシルト。有機物を少量混入。
14	-2.70	0.30	13.50		砂	暗灰			細砂～中砂主体。シルトをブロック状に混入。ϕ10mm程の礫を少量混入。
16	-5.30	2.60	16.10		砂混じりシルト	暗灰		中位	やや硬いシルトを主体とし、一部粘り気が強い。 細砂をシーム状に不規則に混入する。 有機物、炭化物を少量混入する。
17	-5.90	0.60	16.70		砂礫	暗灰	密な		ϕ2～30mm程度の亜円礫主体。礫間充填物は中砂～粗砂が目立つ。有機物少量混入。
18	-6.45	0.55	17.25		シルト	褐			やや硬いシルト。有機物を少量混入。
20	-8.40	2.85	20.10		砂礫	暗灰	非常に密な		ϕ2～30mm程度の亜円礫～亜角礫主体。礫間充填物は細砂～粗砂が目立つ。 細粒分は少ない。
21	-9.90	0.50	20.70		砂質シルト	暗灰			やや硬いシルト。細砂を多く混入。 有機物少量混入。
22					砂	暗灰	密な		細砂主体。粒径は均一である。
23	-12.30	2.40	23.10		粘土質シルト	暗灰		中位	やや硬いシルトを主体。見かけ上は均一である。 所々、粘り気が強くなる。 有機物を少量混入する。
24	-12.90	0.60	23.70		シルト質砂	暗灰	中ぐらい		細砂を優勢とする。軟らかいシルトを多く混入。
25	-14.00	1.10	24.80		礫混じり砂	暗灰	密な		細砂～粗砂主体。所々、ϕ2～10mm程度の礫を少量混入する。
26	-14.70	0.70	25.50		砂	暗灰	中ぐらい		細砂～中砂主体。全体に少量シルトを混入する。
27					シルト	暗灰		硬い	硬いシルト。含水量は少ない。 見かけ上は均一であるが、所々粘り気が強くなる。 GL－28.0m付近は砂をブロック状に

孔内水位(m)／測定月日：2/19 1.60

標準貫入試験

深度(m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)	N値
1.15	2	1	2	5/30	5
2.15	4	4	3	11/30	11
3.15	1	1	1	3/30	3
4.15	6	7	9	22/30	22
5.15	8	6	8	22/30	22
6.15	2	2	2	6/30	6
7.15	1	1	1	3/30	3
8.15	1	1	1	3/30	3
9.15	2	2	3	7/30	7
10.15	2	3	4	9/30	9
11.15	1	1	1	3/30	3
12.15	20	16	14	50/30	50
13.15	1	7	8	16/30	16
14.15	2	2	3	7/30	7
15.15	2	2	2	6/30	6
16.15	11	14	15	40/30	40
17.15	2	20	25	47/30	47
18.15	19	23	17	59/30	59
19.15	14	15	32	61/30	61
20.15	4	10	19	33/30	33
21.15	1	2	1	4/30	4
22.15	1	2	2	5/30	5
23.15	4	5	5	14/30	14
24.15	9	10	11	30/30	30
25.15	5	5	6	16/30	16
26.15	3	3	3	9/30	9
27.15	3	3	3	9/30	9

原位置試験

深度(m)	試験名および結果
7.20	孔内水平載荷試験
7.80	2132kN/m2

試料採取 深度(m)	試料番号	採取方法	室内試験（ ）	掘進月日
1.15	P-1	⊖	物理	
1.45				
2.15	P-2	⊖	物理	
2.45				
3.15	P-3	⊖		
3.45				
4.15	P-4	⊖		
4.15				
5.15	P-5	⊖	物理	
5.45				
6.15	P-6	⊖	物理	
6.45				
7.15	P-7	⊖		
7.45				
8.15	P-8	⊖		
8.45				
9.15	P-9	⊖	物理	
9.45				
10.15	P-10	⊖		
10.45				
11.15	P-11	⊖		2/19
11.45				
12.15	P-12	⊖		
12.45				
13.15	P-13	⊖	物理	
13.45				
14.15	P-14	⊖		
14.45				
15.15	P-15	⊖		
15.45				
16.15	P-16	⊖		
16.45				
17.15	P-17	⊖		
17.45				
18.15	P-18	⊖		
18.45				
19.15	P-19	⊖		
19.45				
20.15	P-20	⊖	物理	2/20
20.45				
21.15	P-21	⊖		
21.45				
22.15	P-22	⊖		
22.45				
23.15	P-23	⊖		
23.45				
24.15	P-24	⊖		
24.45				
25.15	P-25	⊖		
25.45				
26.15	P-26	⊖		
26.45				
27.15	P-27	⊖		
27.45				

27				シルト	暗灰	硬い		硬いシルト。含水量は少ない。 見かけ上は均一であるが、所々粘り気が強くなる。 GL−28.0m付近は砂をブロック状に少量混入する。また、有機物を少量混入。
28								
29	-18.30	3.60	29.10					
30				砂礫	暗灰	非常に密な		φ2〜40mm程度の亜角礫〜亜円礫主体。礫間充填物は中砂〜粗砂が目立つ。 細粒分を少量混入する。
31	-20.60	2.30	31.40					
32				砂	暗灰	密な		細砂〜中砂主体。所によりシルトを少量混入する。 有機物を少量混入する。
33	-22.70	2.10	33.50					
34								

27.15	3	3	3	9/30	9		27.15	P-27	⊖	
27.45							27.45			
28.15	3	3	4	10/30	10		28.15	P-28	⊖	
28.45							28.45			
29.15	32	28/8		60/18	100		29.15	P-29	⊖	
29.33							29.33			
30.15	29	31/9		60/19	95		30.15	P-30	⊖	2/21
30.34							30.34			
31.15	20	17	15	52/30	52		31.15	P-31	⊖	
31.45							31.45			
32.15	8	10	12	30/30	30		32.15	P-32	⊖	
32.45							32.45			
33.15	9	11	13	33/30	33		33.15	P-33	⊖	2/22
33.45							33.45			

ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNo	

シートNo

ボーリング名	No.2（アメニティ）	調査位置	静岡市葵区北安東4丁目27番1号			北緯	35° 0' 0.4"
発注機関	地方独立行政法人静岡県立総合病院			調査期間	平成 23年 2月 19日 ～ 23年 2月 21日	東経	138° 23' 25.1"
調査業者名				現場代理人		コア鑑定者	ボーリング責任者
孔口標高	GH＝10.63m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 水平0° 90° 0°
総掘進長	37.50m	使用機種	試錐機	KR-100P	ハンマー落下用具	半自動落下装置	
			エンジン	NFD-10	ポンプ	V-5	

標高(m)	層厚(m)	深度(m)	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
			盛土	褐～暗灰～緑灰			3層よりなる。 地表4cmはアスファルト。GL－0.40mまではシルト混じり砂礫（褐色）。 礫はφ2～30mm程度で、maxは60mm程度。 GL－0.40～1.90m間は砂混じりシルト（暗灰）からなる。 シルトは軟らかく、有機物を少量混入する。また、不規則にφ20mm程度の礫を少量混入。 GL－1.90～2.70m間はシルト混じり砂礫（緑灰）からなる。 礫はφ2～40mm程度の亜角礫を主体とし、10mm程度のコンクリートガラを混入。シルトは軟らかい。
7.93	2.70	2.70					
6.93	0.90	3.70					
			砂	暗灰			細砂主体。
			シルト	暗灰～褐		軟らかい	非常に軟らかいシルト。有機物を少量混入し、GL－3.5m以は有機質土となる。
4.83	2.10	5.80	シルト質砂	暗灰	緩い		細砂～中砂優勢。下部ほど粒径が大きく、砂の混入量も多くなる。 有機物を少量混入する。シルトは軟らかく、混入は不規則である。 GL－5.10m、5.50m付近は層厚5cm以下の砂礫層を挟む。 礫はφ2～10mm程度。
4.23	0.60	6.40					
2.73	1.50	7.90	シルト	暗灰	中位		やや硬いシルトで、GL－6.1m付近までは細砂をシーム状に挟む。 有機物を少量混入。
1.73	1.00	8.90	有機質土	褐		軟らかい	未分解の有機物を多く混入する腐植土層。 指でこねると急激に軟らかくなる。
1.53	0.20	9.10	シルト	暗灰～黒褐	軟らかい		軟らかいシルト。所々有機物が多く一部は有機質土を挟む。下部は細砂を混入
1.03	0.50	9.60					
0.53	0.50	10.10	砂混じりシルト	暗灰			軟らかいシルト。有機物を混入。砂は細砂主体。
-0.07	0.60	10.70	シルト質砂	暗灰	緩い		細砂主体。有機物少量混入。シルトは軟らかい。GL－9.3m付近砂礫挟む。
-0.32	0.25	10.95					
			砂	暗灰			細砂主体。シルトの薄層挟む。
-1.87	1.55	12.50	砂混じりシルト	暗灰		軟らかい	軟らかいシルト。局所的に有機質土を挟む。砂は細砂主体。
			砂	暗灰			掘削状況で判断。
-2.27	0.40	12.90	砂礫	暗灰	中ぐらい		φ2～20mm程度の亜角礫～亜円礫主体。礫間充填物は中砂～粗砂が目立つ。 細粒分は少ない。 GL－11.50m付近までは有機物を混入する。
-3.37	1.10	14.00					
			シルト	暗灰			掘削状況より判断。
-4.17	0.80	14.80	シルト質砂	暗灰		中位	細砂～中砂主体。有機物を混入。シルトを薄く挟む。
-5.07	0.90	15.70	砂混じりシルト	暗灰		中位	やや硬いシルト。細砂を全体に混入。有機物少量混入。
			砂礫	暗灰	密な		φ2～20mm程度の亜角礫～亜円礫主体。礫間充填物は中砂～粗砂が目立つ。 細粒分は少ない。少量泥水が漏水する。
-7.27	2.20	17.90	シルト質砂	暗灰	緩い		細砂を優勢とし全体にシルトを多く混入する。下部ほど粒径が大きくなる。 有機物少量混入。
-8.67	1.40	19.30	砂礫	暗灰	非常に密な		φ2～20mm程度の亜円礫主体。礫間充填物は中砂～粗砂が目立つ。 細粒分は少ない。泥水が少量漏水する。
-9.97	1.30	20.60	砂	暗灰	中ぐらい		細砂～中砂主体。φ5mm程度の礫を少量混入。 GL－20.0m付近まではシルトをシーム状に数カ所挟む。
-11.17	1.20	21.80	シルト	暗灰		中位	やや硬いシルト。見かけ上はほぼ均一である。
-11.57	0.40	22.20	シルト混じり砂	暗灰			細砂～中砂主体。シルトを全体に混入。有機物少量混入。
-12.07	0.50	22.70	シルト	暗灰			軟らかいシルト。細砂をシーム状に挟む。有機物少量混入。
-12.47	0.40	23.10					
-12.97	0.50	23.60	砂・シルト互層	暗灰			軟らかいシルトと細砂の互層（層厚5cm程度）。有機物少量混入。
-13.62	0.65	24.25	砂	暗灰	中ぐらい		細砂～中砂主体。全体にシルトを少量混入。
			礫混じり砂	暗灰			細砂～粗砂主体。φ2～10mm程度の亜円礫少量混入。
-14.97	1.35	25.60	シルト質砂	暗灰	中ぐらい		細砂主体。シルトはやや硬い。 GL－25.0m付近までは細砂優勢。以深は細砂とシルトの互層（厚さ5～10cm）。 有機物を少量混入する。
			シルト	暗灰		中位	硬いシルト。見かけ上は均一である。 貝殻片を少量混入する。

孔内水位(m)／測定月日：2/19 2.70

標準貫入試験

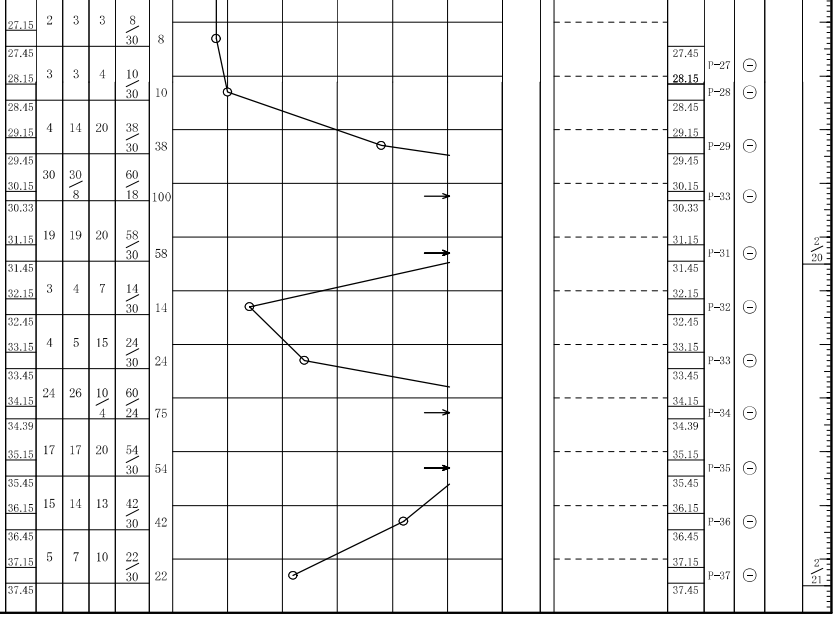
深度(m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)	N値
1.15	1	2	2	5/30	5
1.45	2	2	2	6/30	6
2.15					
2.45	1	1	1	3/30	3
3.15					
3.45	2	2	4	8/30	8
4.15					
4.45	2	2	4	8/30	8
5.15					
5.45	2	2	2	6/30	6
6.15					
6.45	1	1		2/30	2
7.15	20				
7.45	1	1	2	4/30	4
8.15					
8.45	2	2	3	7/30	7
9.15					
9.45	1	1	2	4/30	4
10.15					
10.45	8	8	10	26/30	26
11.15					
11.45	8	9	7	24/30	24
12.15					
12.45	3	5	5	13/30	13
13.15					
13.45	2	2	2	6/30	6
14.15					
14.45	14	15	16	45/30	45
15.15					
15.45	3	2	3	8/30	8
16.15					
16.45	2	2	5	9/30	9
17.15					
17.45	17	17	20	54/30	54
18.15					
18.45	10	9	7	26/30	26
19.15					
19.45	7	8	7	22/30	22
20.15					
20.45	2	2	2	6/30	6
21.15					
21.45	4	3	3	10/30	10
22.15					
22.45	7	8	12	27/30	27
23.15					
23.45	6	2	4	12/30	12
24.15					
24.45	3	3	4	10/30	10
25.15					
25.45	2	3	3	8/30	8
26.15					
26.45	2	3	3	8/30	8
27.15					
27.45					

原位置試験

深度(m)	試験名および結果
4.00	孔内水平載荷試験 3403kN/m2
4.60	

試料深度(m)	試料番号	採取方法	室内試験（ ）	掘進月日
1.15	P-1	⊖		
1.45				
2.15	P-2	⊖		
2.45				
3.15	P-3	⊖		
3.45				
4.15	P-4	⊖	物理	
4.45				
5.15	P-5	⊖	物理	
5.45				
6.15	P-6	⊖		
6.45				
7.15	P-7	⊖		
7.45				
8.15	P-8	⊖		
8.45				
9.15	P-9	⊖	物理	
9.45				
10.15	P-10	⊖		
10.45				
11.15	P-11	⊖	物理	
11.45				
12.15	P-12	⊖		
12.45				
13.15	P-13	⊖	物理	
13.45				
14.15	P-14	⊖		
14.45				
15.15	P-15	⊖		
15.45				
16.15	P-16	⊖	物理	
16.45				
17.15	P-17	⊖		2/19
17.45				
18.15	P-18	⊖		
18.45				
19.15	P-19	⊖		
19.45				
20.15	P-20	⊖	物理	
20.45				
21.15	P-21	⊖		
21.45				
22.15	P-22	⊖		
22.45				
23.15	P-23	⊖		
23.45				
24.15	P-24	⊖		
24.45				
25.15	P-25	⊖		
25.45				
26.15	P-26	⊖		
26.45				
27.45				

27	-17.17	2.20	27.80	シルト	暗灰		中位	硬いシルト。見かけ上は均一である。 貝殻片を少量混入する。
28	-18.07	0.90	28.70	砂混じりシルト	暗灰		硬い	硬いシルト。全体に細砂を少量混入し、部分的に5cm程度の薄層を挟む。 有機物を少量混入する。
29	-18.67	0.60	29.30	砂	暗緑灰			細砂～中砂主体。シルトを全体に少量混入。φ5mm程度の礫を少量混入。
30 31	-20.97	2.30	31.60	砂礫	暗灰	非常に密な		φ2～30mm程度の亜角礫～亜円礫を主体。礫間充填物は細砂～粗砂が目立つ。 全体に少量細粒分を混入する。 泥水が少量漏水する。
	-21.27	0.30	31.90	礫混じり砂	暗灰			掘削状況により判断。
32	-21.72	0.45	32.35	シルト	暗褐			硬いシルト。有機物を多く混入する。
33	-22.77	1.05	33.40	砂質シルト	暗灰			硬いシルトを主体とし、全体に細砂を不規則に多く混入する。
34 35	-25.27	2.50	35.90	砂礫	暗灰	非常に密な		φ2～30mm程度の亜角礫～亜円礫主体。礫間充填物は細砂～粗砂が目立つ。 細粒分の混入は少ない。
36 37	-26.47	1.20	37.10	礫混じり砂	暗灰	密な		細砂～粗砂を主体。φ10mm程度の礫を少量混入する。
	-26.87	0.40	37.50	砂質シルト	暗灰		非常に硬い	硬いシルト。全体に細砂を多く混入する。



ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名　（BMは、北館のフロアーレベルを11.10mとする）

ボーリングNo	1

シートNo　1

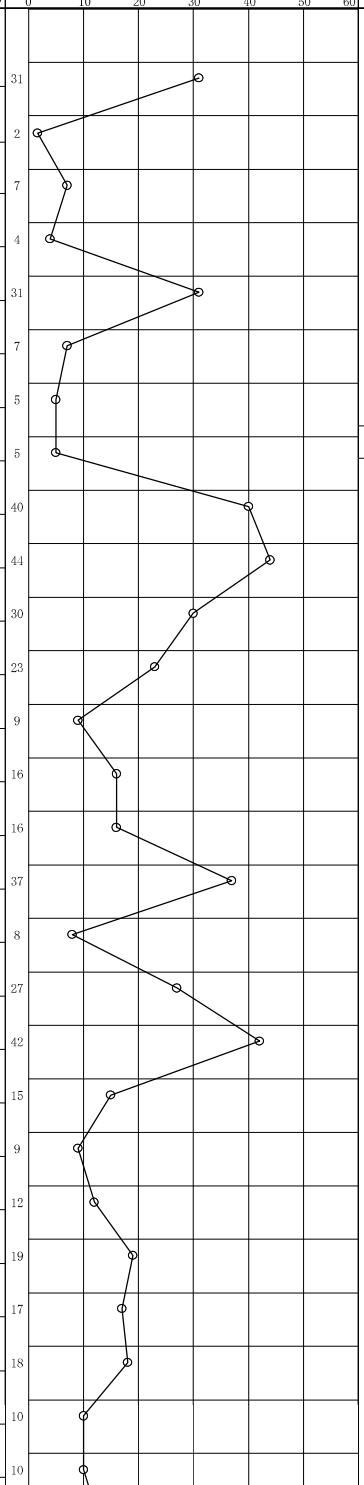
ボーリング名	B-No.1	調査位置	静岡県静岡市　葵区北安東　地先			北緯	35° 0' 12.0"
発注機関				調査期間	平成 17年 7月 21日 ～ 17年 7月 25日	東経	138° 23' 7.0"
調査業者名				現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	10.70m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 水平0° 90° 0°	使用機種	試錐機	KR-100	ハンマー落下用具	半自動落下装置
総掘進長	40.50m								エンジン	NFD-10H	ポンプ	V6-P

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
1					盛土	暗灰			深度0.30m付近迄は暗褐灰色を呈する砂礫主体層。 深度0.30～1.00m付近迄は礫、砂混じりシルト主体。 深度1.00～1.50m付近迄は改良土層。 深度1.50～2.60m付近迄はシルト混じり砂を主体とし、コンクリート片及び礫分を混入する。
2	8.10	2.60	2.60						
3	7.35	0.75	3.35		砂	暗灰	緩い		細砂を主体とし、所々、中砂の薄層を挟在する。
4	6.20	1.15	4.50		シルト	暗灰		軟らかい	含水比は「中位」。粘性は「中位」。腐植物を混入する。
5	4.75	1.45	5.95		砂礫	暗灰	密な		径2～20mm程度の亜円礫を主体とし、細砂～粗砂をマトリックスとする。
6	3.25	1.50	7.45		シルト	暗灰		中位	含水比は「中位」。粘性は「中位」。 所々、腐植土層及び細砂の薄層を挟在する。
	2.90	0.35	7.80		砂	暗灰			細砂を主体とする。
8	2.20	0.70	8.50		シルト	暗灰		中位	含水比は「中位」。粘性は「中位」。腐植物を混入する。
9					砂礫	暗灰	密な		径2～20mm程度の亜円礫を主体とし、細砂～粗砂をマトリックスとする。 層内は、掘削水の逸水が少量あり。
10	0.20	2.00	10.50						
11	-0.50	0.70	11.20		腐植物混じりシルト	暗灰			含水比は「中位」。粘性は「中位」。含水比「低位」なる腐植土層を挟在する。
	-1.30	0.80	12.00		砂礫	暗灰			径2～20mm程度の亜円礫を主体とし、細砂～粗砂をマトリックスとする。
12	-2.25	0.95	12.95		砂	暗灰	中ぐらい		微細砂を主体とし、所々径5～20mm程度の亜円礫を混入する。層内には一部炭化物を混入する。
13	-3.15	0.90	13.85		シルト	暗灰		硬い	含水比は「中位」。粘性は「中位」。 腐植物を混入し、一部腐植土層を挟在する。
14	-3.35	0.20	14.05		砂礫	暗灰			径2～20mm程度の亜円礫を主体とし、細砂～粗砂をマトリックスとする。
	-4.10	0.75	14.80		砂	暗灰	中ぐらい		微細砂を主体とし、所々腐植物を混入する。一部細砂～中砂の薄層を挟在する。
15	-4.55	0.45	15.25		砂礫	暗灰			径2～20mm程度の亜円礫を主体とし、細砂～粗砂をマトリックスとする。
16	-5.50	0.95	16.20		シルト	暗灰			含水比は「中位」。粘性は「中位」。所々腐植物を混入し、細砂の薄層を挟在する。
17	-6.30	0.80	17.00		砂礫	暗灰			径2～20mm程度の亜円礫を主体とし、細砂～粗砂をマトリックスとする。
	-7.10	0.80	17.80		シルト	暗灰		中位	含水比は「中位」。粘性は「中位」。所々腐植物を混入し、一部層厚5cm程度の腐植土層を挟在する。上部付近微細砂層を挟在する。
18	-7.65	0.55	18.35		砂	暗灰			微細砂を主体とし、シルトの薄層を挟在する。
19	-9.00	1.35	19.70		礫混じり砂	暗灰	密な		微細砂～細砂を主体とし、所々径2～15mm程度の亜円礫を混入する。
20	-9.85	0.85	20.55		砂	暗灰	中ぐらい		微細砂を主体とし、厚さ5cm程度のシルトの薄層を挟在する。
21					砂混じりシルト	暗灰		硬い～非常に硬い	含水比は「中位」。粘性は「中位～強い」。 微細砂の薄層をシーム状に挟在する。少量の腐植物及び炭化物を混入する。
22									
23									
24									
25	-15.20	5.35	25.90						
26					シルト	暗灰		硬い	含水比は「中位～低位」。粘性は「強い」。 所々、貝殻片を混入する。
27									

孔内水位(m)／測定月日：7/21 1.90

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)
1.15	13	12	6	31/30
1.45 / 2.15	1/20	1/15		2/35
2.50 / 3.15	3	3	1	7/30
3.45 / 4.15	1	1	2	4/30
4.45 / 5.15	10	10	11	31/30
5.45 / 6.15	2	3	2	7/30
6.45 / 7.15	2	1	2	5/30
7.45 / 8.15	2	1	2	5/30
8.45 / 9.15	15	14	11	40/30
9.45 / 10.15	13	16	15	44/30
10.45 / 11.15	6	9	15	30/30
11.45 / 12.15	6	7	10	23/30
12.45 / 13.15	3	2	4	9/30
13.45 / 14.15	6	4	6	16/30
14.45 / 15.15	7	5	4	16/30
15.45 / 16.15	6	16	15	37/30
16.45 / 17.15	2	3	3	8/30
17.45 / 18.15	6	8	13	27/30
18.45 / 19.15	13	14	15	42/30
19.45 / 20.15	6	5	4	15/30
20.45 / 21.15	3	3	3	9/30
21.45 / 22.15	3	4	5	12/30
22.45 / 23.15	5	6	8	19/30
23.45 / 24.15	5	5	7	17/30
24.45 / 25.15	5	6	7	18/30
25.45 / 26.15	3	4	3	10/30
26.45 / 27.15	3	3	4	10/30
27.45				



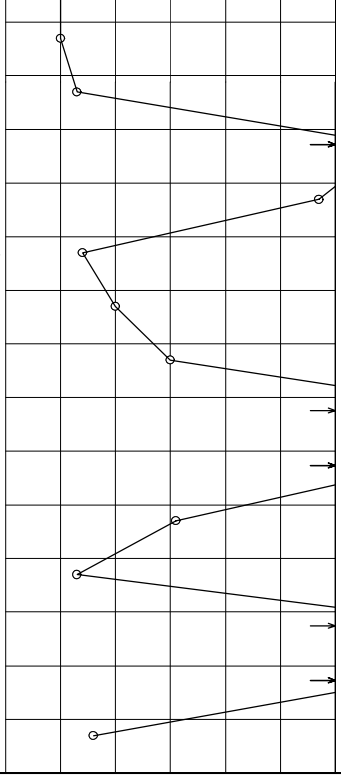
原位置試験

深度 (m)	試験名および結果
7.80	孔内水平載荷試験 2.51MN/m2
8.40	

試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験（　）	掘進月日
2.15 / 2.45	P1-1	⊖	簡易粒度試験	
3.15 / 3.45	P1-2	⊖	簡易粒度試験	
5.15 / 5.45	P1-3	⊖	簡易粒度試験	
7.45 / 7.55	P1-4	⊖	簡易粒度試験	7/21
12.15 / 12.45	P1-5	⊖	簡易粒度試験	
14.15 / 14.45	P1-6	⊖	簡易粒度試験	
19.15 / 19.45	P1-7		簡易粒度試験	7/22

27				シルト	暗灰		硬い	含水比は「中位～低位」。粘性は「強い」。 所々、貝殻片を混入する。
28	-17.65	2.45	28.35					
	-18.20	0.55	28.90	砂	暗灰			微細砂を主体とする。
29				砂礫	暗灰	非常に密な		径2～20mm程度の亜円礫を主体とし、細砂～粗砂をマトリックスとする。
30								
31	-20.30	2.10	31.00					
				シルト	暗灰		硬い～非常に硬い	含水比は「中位」。粘性は「中位～強い」。 上部付近微細砂層を挟在する。少量の腐植物及び炭化物を混入する。 若干の細砂分を混入する部分あり。
32	-22.15	1.85	32.85					
33				砂	暗灰	密な		均質な微細砂を主体とし、シーム状にシルトの薄層を挟在する。 一部小礫を混入する。
	-22.90	0.75	33.60					
34				砂礫	暗灰	非常に密な		径2～20mm程度の亜円礫を主体とし、細砂～粗砂をマトリックスとする。
35	-25.10	2.20	35.80					
36				砂	暗灰	密な		均質な微細砂を主体とし、レンズ状にシルトの薄層を挟在する。シルト層内には腐植物を混入する。
	-26.30	1.20	37.00					
37				シルト	暗灰		硬い	含水比は「低位」。粘性は「弱い」。若干の砂分及び腐植物、炭化物を混入する。
38	-27.40	1.10	38.10					
				砂礫	暗灰	非常に密な		径2～20mm程度の亜円礫を主体とし、細砂～粗砂をマトリックスとする。
39	-28.80	1.40	39.50					
40				シルト	暗灰		非常に硬い	含水比は「中位～低位」。粘性は「強い」。
	-29.80	1.00	40.50					

27.15	3	3	4	10/30	10
27.45 28.15	3	4	6	13/30	13
28.45 29.15	18	26	16/6	60/26	69
29.41 30.15	19	18	20	57/30	57
30.45 31.15	4	4	6	14/30	14
31.45 32.15	5	7	8	20/30	20
32.45 33.15	8	9	13	30/30	30
33.45 34.15	28	32		60/20	90
34.35 35.15	23	27	10/4	60/24	75
35.39 36.15	7	11	13	31/30	31
36.45 37.15	4	4	5	13/30	13
37.45 38.15	20	34	6/1	60/21	86
38.36 39.15	27	25	8/5	60/25	72
39.40 40.15	5	5	6	16/30	16
40.45					



7/13

7/25

ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名　（BMは、北館のフロアーレベルを11.10mとする）

ボーリングNo	2

シートNo　2

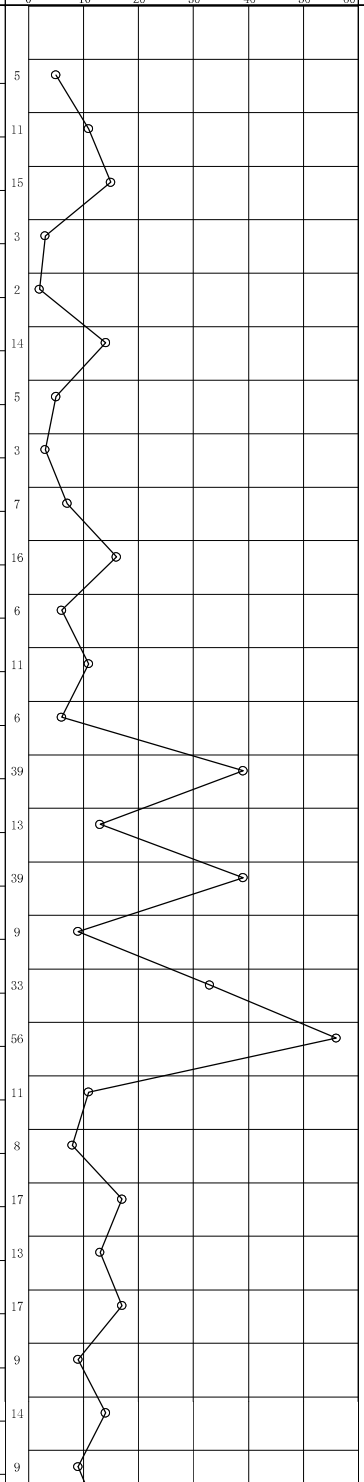
ボーリング名	B-No.2	調査位置	静岡県静岡市　葵区北安東　地先			北緯	35° 0' 11.0"
発注機関				調査期間	平成 17年 7月 18日 ～ 17年 7月 20日	東経	138° 3' 9.0"
調査業者名				現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	10.69m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 水平0° 90° 0°	使用機種	試錐機	KR-100	ハンマー落下用具	半自動落下装置
総掘進長	40.50m								エンジン	NFD-9	ポンプ	V-4

標尺(m)	標高(m)	層厚(m)	深度(m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
1 2 3 4 5 6	4.39	6.30	6.30		盛土	暗灰～暗褐			表部アスファルト約3cm。GL-3.80mまで10~50mmの亜角礫を混在するシルト質砂礫状。GL-1.50m~3.80m区間は「ガサガサ」状。GL-3.80m以深はシルト質砂礫を主体とし、粘性土を不均質に混入するものの、泥水掘削においては逸泥が著しい。
	3.99	0.40	6.70		腐植土	黒褐			黒泥状を化す。含水中～高位。
7	2.89	1.10	7.80		砂質シルト	暗灰		中位	細砂の混入は不均質にある。腐植物を少量混入する。含水比は「中位」。粘性は「弱い」。
8	1.69	1.20	9.00		シルト	暗灰		軟らかい	含水は「中位」。粘性は「弱い」。腐植物を少量混入する。
9 10	-0.11	1.80	10.80		シルト混じり砂	暗灰	緩い～中ぐらい		シルトの混入は不均質にあり、5cm程度のシルト薄層も部分的に挟在する。砂は細砂を主体とするが、粗砂の挟在も見られる。腐植物を少量混入する。
11	-1.21	1.10	11.90		砂混じりシルト	暗灰		中位	含水比は「中位」。粘性は「中位」。細砂を薄層にて少量挟在。腐植物を少量混入し、部分的に腐植土質状を示す。
12	-2.21	1.00	12.90		シルト混じり砂	暗灰	中ぐらい		細砂を主体とし、部分的に砂混じりシルトを挟在。腐植物を少量混入。
13	-2.81	0.60	13.50		シルト	暗灰		中位	含水比は「低~中位」。粘性は「弱い」。一部腐植土質状を示す。
14	-3.81	1.00	14.50		砂礫	暗灰	密な		2～20mm程度の亜角～亜円礫を主体とし、細砂～粗砂をマトリックスとする。
	-4.21	0.40	14.90		シルト	暗灰			含水比は「中位」。粘性は「中位」。掘削にて確認した。
15	-5.21	1.00	15.90		シルト質砂	暗灰	中ぐらい		細砂を優勢とするシルトとの互層状。腐植物をわずかに混入。
16 17	-6.41	1.20	17.10		砂礫	暗灰	密な		2～20mm程度の亜円礫を主体とし、細砂～粗砂をマトリックスとする。
18	-7.61	1.20	18.30		シルト	暗灰		硬い	含水比は「低位～中位」。粘性は「弱い」。腐植物を少量混入する。
	-7.81	0.20	18.50		シルト混じり砂	暗灰			シルトを薄層にて少量挟在。GL-8.40mより2～5mm程度の礫を少量混在。
19	-9.01	1.20	19.70		砂礫	暗灰	非常に密な		2～10mm程度の亜円礫を主体とし、細砂～粗砂をマトリックスとする。全体的に砂分が多い。
20	-9.81	0.80	20.50		シルト質砂	暗灰	中ぐらい		細砂をやや優勢とし、シルトをシーム状または不均質にて混入する。
	-10.21	0.40	20.90		シルト	暗灰			含水比は「低～中位」。腐植物をわずかに混入する。
21 22 23 24 25	-14.81	4.60	25.50		砂質シルト	暗灰		硬い～非常に硬い	含水比は「低位～中位」。粘性は「弱い」。砂質シルトを主体とし、所々、細砂の薄層を挟在する。また部分的にシルト分を2～5cm程度の薄層にて挟在する。
26 27	-17.01	2.20	27.70		シルト	暗灰		硬い	含水比は「中位」。粘性は「中位」。GL-27.00m付近までは細砂を薄層にて少量挟在する。GL-27.00m以深より比較的均質な状態にあり、貝殻細片が少量混入する。

孔内水位(m)／測定月日：7/18 3.30

標準貫入試験

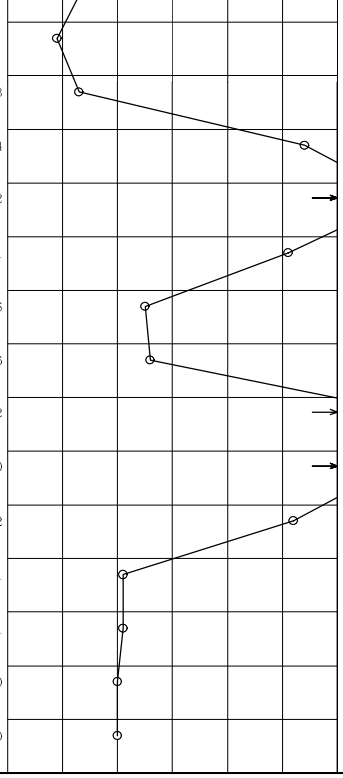
深度(m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)	N値
1.15	1	1	3	5/30	5
1.45 / 2.15	4	4	3	11/30	11
2.45 / 3.15	5	5	5	15/30	15
3.45 / 4.15	1	1	1	3/30	3
4.45 / 5.15	1/20	1		2/30	2
5.45 / 6.15	11	2	1	14/30	14
6.45 / 7.15	1	2	2	5/30	5
7.45 / 8.15	1	1	1	3/30	3
8.45 / 9.15	1	3	3	7/30	7
9.45 / 10.15	4	5	7	16/30	16
10.45 / 11.15	2	2	2	6/30	6
11.45 / 12.15	4	3	4	11/30	11
12.45 / 13.15	2	2	2	6/30	6
13.45 / 14.15	15	14	10	39/30	39
14.45 / 15.15	4	4	5	13/30	13
15.45 / 16.15	12	12	15	39/30	39
16.45 / 17.15	3	3	3	9/30	9
17.45 / 18.15	7	12	14	33/30	33
18.45 / 19.15	20	20	16	56/30	56
19.45 / 20.15	3	4	4	11/30	11
20.45 / 21.15	3	2	3	8/30	8
21.45 / 22.15	5	6	6	17/30	17
22.45 / 23.15	3	4	6	13/30	13
23.45 / 24.15	5	5	7	17/30	17
24.45 / 25.15	3	3	3	9/30	9
25.45 / 26.15	5	4	5	14/30	14
26.45 / 27.15	3	3	3	9/30	9
27.45					



原位置試験 深度(m)	試験名および結果	試料採取 深度(m)	試料番号	採取方法	室内試験(　)	掘進月日
		3.15 / 3.45	P2-1	⊖	簡易粒度試験	7/18

27	-17.01	2.20	27.70		ルト	暗灰	い	GL-27.00m以深より比較的均質な状態にあり、貝殻細片が少量混入する。
28					砂混じりシルト	暗灰	硬い	含水は「低位～中位」。粘性は「弱い～中位」。 微細砂～細砂を不均質に混入する。 貝殻細片を少量混入する。
29	-18.41	1.40	29.10					
30	-19.61	1.20	30.30		砂礫	暗灰	非常に密な	径2～20mm程度の亜円礫を主体とし、細砂～粗砂をマトリックスとする。
31	-21.31	1.70	32.00		礫混じり砂	暗灰	非常に密な	径2～10mm程度の亜円礫を少量混在する細砂。
32					シルト質砂	暗灰	中ぐらい	微細砂を優勢とし、シルトと互層状を呈する。
33	-23.11	1.80	33.80					
34	-25.01	1.90	35.70		砂礫	暗灰	非常に密な	2～20mmの亜円礫を主体とし、細砂～粗砂をマトリックスとする。 全体に砂分の多い砂礫層。
35								
36	-26.51	1.50	37.20		砂	暗灰	非常に密な	細砂～中砂を主体とする。
37								
38	-27.81	1.30	38.50		シルト	暗灰	非常に硬い	含水比は「低位～中位」。粘性は「弱い」。 細砂をシーム状にて部分的に挟在する。腐植物を少量混入する。
39	-28.41	0.60	39.10		砂	暗灰		細砂を主体とする。
40	-29.81	1.40	40.50		砂質シルト	暗灰	非常に硬い	微細砂を不均質に挟在する。 含水比は「低位～中位」。粘性は「弱い」。

27.15	3	3	3	9/30	9
27.45	3	4	6	13/30	13
28.15					
28.45	13	20	21	54/30	54
29.15					
29.45	24	25	11/5	60/25	72
30.15					
30.40	19	17	15	51/30	51
31.15					
31.45	6	8	11	25/30	25
32.15					
32.45	9	9	8	26/30	26
33.15					
33.45	20	23	17/5	60/25	72
34.15					
34.40	24	21	16/6	61/26	70
35.15					
35.41	14	15	23	52/30	52
36.15					
36.45	7	7	7	21/30	21
37.15					
37.45	7	6	8	21/30	21
38.15					
38.45	5	7	8	20/30	20
39.15					
39.45	6	7	7	20/30	20
40.15					
40.45					



ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名　（BMは、北館のフロアーレベルを11.10mとする）

ボーリングNo	3

シートNo　3

ボーリング名	B-No.3	調査位置	静岡県静岡市　葵区北安東　地先			北緯	35° 0' 12.0"
発注機関				調査期間	平成 17年 7月 21日 ～ 17年 7月 26日	東経	138° 23' 8.0"
調査業者名				現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	10.76m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 水平0° 90° 0°	使用機種	試錐機	KR-100	ハンマー落下用具	半自動落下装置
総掘進長	37.50m								エンジン	NFD-9	ポンプ	V-4

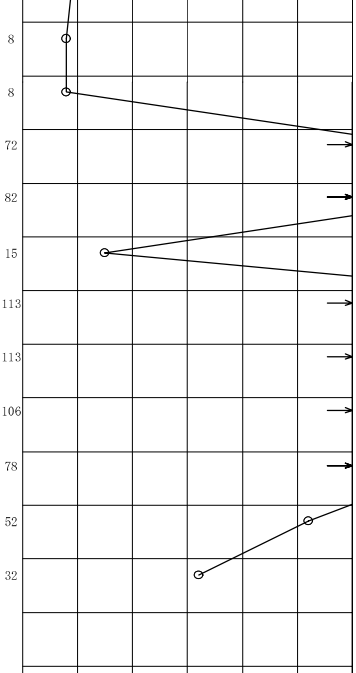
標尺(m)	標高(m)	層厚(m)	深度(m)	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位(m)／測定月日	深度(m)	打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)	N値	原位置試験 深度(m)	試験名および結果	試料採取 深度(m)	試料番号	採取方法	室内試験(〜)	掘進月日
1				盛土	褐灰～暗灰			砕石直下よりGL-0.10mまで黄褐色の砂礫状。 GL-0.10m~0.80m区間は暗灰色の礫混じりシルト状。 GL-0.80m~2.00m区間は2~40mm(max100mm)の亜角礫を混在するシルト質砂礫状。 GL-2.00m~2.50m区間は含水低~中位のシルトを主体。 GL-2.50m~3.30m区間は細砂を主体とし、自然水確認される。 GL-3.30m以深はシルト～腐植土を主体とし、40mm程度の亜角礫を不均質に混在している。 GL-2.50m以深は逸泥は認められないが、泥水希釈される。	7/21 2.50	1.15	0	1	2	3/30	3							
2										1.45 2.15	1/15	1	1	3/35	3							
3										2.50 3.15	5	4	2	11/30	11			3.15 3.45	P3-1	⊖	簡易粒度試験	
4	6.16	4.60	4.60							3.45 4.15	1	1	4	6/30	6							
5	5.16	1.00	5.60	シルト混じり砂	暗灰	緩い		細砂を主体とし、シルト薄層をシーム状に挟在する。		4.45 5.15	3	2	3	8/30	8			5.15 5.45	P3-2	⊖	簡易粒度試験	
6	3.76	1.40	7.00	シルト	暗灰		軟らかい	含水比は「中位」。粘性は「中位」 腐植物を混入、また部分的に黒褐色を示す腐植土の薄層を挟在する。		5.45 6.15	1/15	1	1	3/35	3							
7	2.76	1.00	8.00	砂質シルト	暗灰		軟らかい	含水比は「中位」。粘性は「弱い」。 細砂を不均質に混入する。腐植物を少量混入する。		6.50 7.15	1	1	1	3/30	3							
8	1.96	0.80	8.80	シルト	暗灰		軟らかい	含水比は「中位」。粘性は「中位」。 腐植物を混入、また部分的に黒褐色を示す腐植土の薄層を挟在する。		7.45 8.15	1	1	1	3/30	3							
9	1.66	0.30	9.10	シルト質砂	暗灰			微細砂を主体とし、腐植物を少量混入する。		8.45 9.15	8	10	10	28/30	28			9.15 9.45	P3-3	⊖	簡易粒度試験	
	0.96	0.70	9.80	砂礫	暗灰	中ぐらい		径2～20mm程度の亜円礫を主体とし、細砂～粗砂をマトリックスとする。 腐植物を少量混入している。		9.45 10.15	3	3	4	10/30	10							
10				シルト質砂	暗灰	緩い		シルト質砂～砂質シルトの互層状によって構成する。 腐植物を少量混入する。		10.45 11.15	3	3	4	10/30	10							
11	-0.24	1.20	11.00							11.45 12.15	4	2	3	9/30	9							ハ 21
	-0.64	0.40	11.40	腐植土	黒褐			黒泥状を化し、繊維質の腐植物を混入する。含水比は「中位」。粘性は「弱い」。		12.45 13.15	2	2	2	6/30	6			12.15 12.45	P3-4	⊖	簡易粒度試験	
12	-2.04	1.40	12.80	シルト質砂	暗灰	緩い		微細砂を主体。不均質にシルト分を混入する。		13.45 14.15	13	10	6	29/30	29	13.10 13.70	孔内水平載荷試験 3.34MN/m2					
13	-3.14	1.10	13.90	シルト	暗灰		中位	含水比は「中位」。粘性は「中位」。 腐植物を混入し、部分的に層厚5～10cm程度にて腐植土を挟在する。		14.45 15.15	4	3	5	12/30	12			14.35 14.45	P3-5	⊖	簡易粒度試験	
14	-3.59	0.45	14.35	砂礫	暗灰			径2～10mm の亜円礫を主体とし、細砂～粗砂をマトリックスとする。 全体に砂分の多い砂礫主体層。		15.45 16.15	11	16	15	42/30	42			15.25 15.45	P3-6	⊖	簡易粒度試験	
15	-4.49	0.90	15.25	礫混じり砂	暗灰			細砂を主体とし径2～10mmの亜円礫を少量混入する。腐植物を少量混入する。		16.45 17.15	15	10	7	32/30	32							
16	-5.39	0.90	16.15	シルト質砂	暗灰			シルトと微細砂とのやや互層状にて構成される。		17.45 18.15	3	7	6	16/30	16			18.25 18.45	P3-7	⊖	簡易粒度試験	
17	-6.74	1.35	17.50	砂礫	暗灰	密な		径2～20mm程度の亜円礫を主体とし、細砂～粗砂をマトリックスとする。 上部にて腐植物を少量混入する。		18.45 19.15	13	15	11	39/30	39							
18	-7.49	0.75	18.25	シルト混じり砂	暗灰			微細砂を主体とする。シルトの混入はやや不均質にある。		19.45 20.15	3	5	5	13/30	13							
	-7.84	0.35	18.60	砂	暗灰			均質な細砂を主体。		20.45 21.15	1	2	2	5/30	5							
19	-9.24	1.40	20.00	礫混じり砂	暗灰	密な		中砂～粗砂を主体とし、径2～10mm程度の亜円礫を少量混在する。		21.45 22.15	3	4	4	11/30	11							
20	-10.04	0.80	20.80	シルト混じり砂	暗灰	中ぐらい		細砂を主体とし、径2～5cm程度の層厚にてシルトを部分的に挟在。		22.45 23.15	3	4	4	11/30	11							
21				シルト	暗灰		中位～硬い	含水比は「中位」。粘性は「中位～やや強い」。 深度22.00m付近までは均質シルトよりなり、粘性やや強い。 深度22.00m以深より腐植物を少量混入する。		23.45 24.15	3	4	4	11/30	11							
22										24.45 25.15	3	3	4	10/30	10							ハ 22
23	-13.04	3.00	23.80							25.45 26.15	3	3	3	9/30	9							
24				砂混じりシルト	暗灰		硬い	含水比は「中位」。粘性は「中位」。 シルトを主体とし、細砂及びシルト混じり砂を部分的に挟在する。		26.45 27.15	2	3	3	8/30	8							
25										27.45												
26	-15.24	2.20	26.00																			
27				シル	暗		硬	含水比は「中位」。粘性は「やや強い」。 比較的均質である。貝殻細片を混入する。														

孔内水位(m)／測定月日：7/21 2.50

標準貫入試験 N値 0 10 20 30 40 50 60

27				シルト	暗灰		硬い	含水比は「中位」。粘性は「やや強い」。 比較的均質である。貝殻細片を混入する。 深度27.50mより細砂を部分的に挟在する。
28								
29	-18.24	3.00	29.00					
30				砂礫	暗灰	非常に密な		径2～30mm程度の亜円礫を主体とし、細砂～粗砂をマトリックスとする。 深度30.00m付近からはやや砂分多い。
31	-20.44	2.20	31.20					
	-21.24	0.80	32.00	シルト質砂	暗灰			微細砂を主体とし、不均質にシルト分を混入する。
32								
33								
34				砂礫	暗灰	非常に密な		径2～30mm程度の亜円礫を主体とし、細砂～粗砂をマトリックスとする。 深度33.80mからはやや砂分多い。
35								
36	-25.74	4.50	36.50					
37	-26.74	1.00	37.50	シルト混じり砂	暗灰	密な		微細砂～細砂を主体とし、シルトをシーム状に少量挟在する。 貝殻細片を少量混入。
38								
39								

27.15	2	3	3	8/30	8
27.45	2	3	3	8/30	8
28.15					
28.45	20	24	16/5	60/25	72
29.15					
29.40	32	24	4/2	60/22	82
30.15					
30.37	9	4	2	15/30	15
31.15					
31.45	35	25/6		60/16	113
32.15					
32.31	42	18/6		60/16	113
33.15					
33.31	31	29/7		60/17	106
34.15					
34.32	23	27	10/3	60/23	78
35.15					
35.38	21	19	12	52/30	52
36.15					
36.45	9	13	10	32/30	32
37.15					
37.45					



ボーリング柱状図

調査名	平成17年度 県立総合病院循環器病センター建築工事地質調査業務委託	ボーリングNo	4

事業・工事名　（BMは、北館のフロアーレベルを11.10mとする）　　シートNo　4

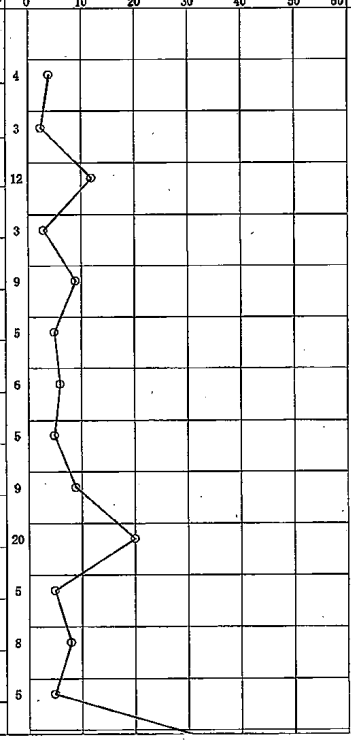
ボーリング名	B-No.4	調査位置	静岡県静岡市　葵区北安東　地先			北緯	35° 0′ 13.0″
発注機関				調査期間	平成 17年 7月 18日 ～ 17年 7月 20日	東経	138° 23′ 9.0″
調査業者名	主任技師			現場代理人		コア鑑定者	ボーリング責任者
孔口標高	10.92m	角度	180°上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270°西 90°東 180°南	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0°
総掘進長	37.45m	使用機種	試錐機	KR-100	ハンマー落下用具	半自動落下装置	
			エンジン	NFD-10H	ポンプ	V6-P	

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
1	10.02	0.90	0.90		盛土	暗褐			地表面～0.08m付近までアスファルト。0.08m～0.35m付近迄は砕石。以下径2～20mm程度の亜円礫を主体とし、シルト混じり細砂をマトリックスとするシルト混じり砂礫主体層。
2	8.22	1.80	2.70		盛土	暗灰			含水比は「低位」。粘性は「弱い」。全体的に径2～40mm程度の亜角～亜円礫及び細砂分を混入する礫、砂混じりシルト主体層。
3	6.92	1.30	4.00		砂	暗灰	中ぐらい		上部付近層厚10cm程度のシルト層を挟在する。細砂～中砂を主体とし、所々礫混じり砂状を呈する部分あり。
4	6.12	0.80	4.80		シルト	暗灰		軟らかい	含水比は「中位～高位」。粘性は「中位」。所々、腐植物を混入する。
5	5.22	0.90	5.70		礫混じり砂	暗灰	緩い		細砂～中砂を主体とし、径2～15mm程度の亜円礫を比較的多く混入する。所々、腐植物を混入する。
6	3.92	1.30	7.00		シルト	暗灰		中位	含水比は「中位～高位」。粘性は「中位」。一部、腐植物及び木片を混入する。全体的に細砂分を混入する。
7	3.02	0.90	7.90		腐植土	黒灰		中位	含水比は「中位～高位」。粘性は「低位」。黒泥化し、腐植物を多量に含む。
8	1.92	1.10	9.00		シルト	暗灰		中位	含水比は「中位」。粘性は「低位」。全体的に細砂及び腐植物を混入する。
9	0.82	1.10	10.10		シルト混じり砂	暗灰	緩い		微細砂～細砂を主体とし、若干のシルト分を混入する。所々腐植物を混入する。
10	0.52	0.30	10.40		砂礫	暗灰			径2～30mm程度の亜円礫を主体とし、細砂～粗砂をマトリックスとする。所々腐植物を混入する。
11	-0.08	0.60	11.00		砂	暗灰			微細砂を主体とする。
12	-0.73	0.65	11.65		シルト	暗灰		中位	含水比は「中位」。粘性は「中位」。腐植物を混入する。
13	-2.13	1.40	13.05		砂	暗灰	緩い		微細砂～細砂を主体とし、所々径2～10mm程度の亜円礫を混入する。
14	[illegible]	[illegible]	[illegible]		シルト	暗灰		中位	含水比は「中位」。粘性は「中位」。所々腐植土の薄層及び腐植物を混入する。上部付近細砂分を混入する。

孔内水位(m)／測定月日：7/18 2.25

標準貫入試験

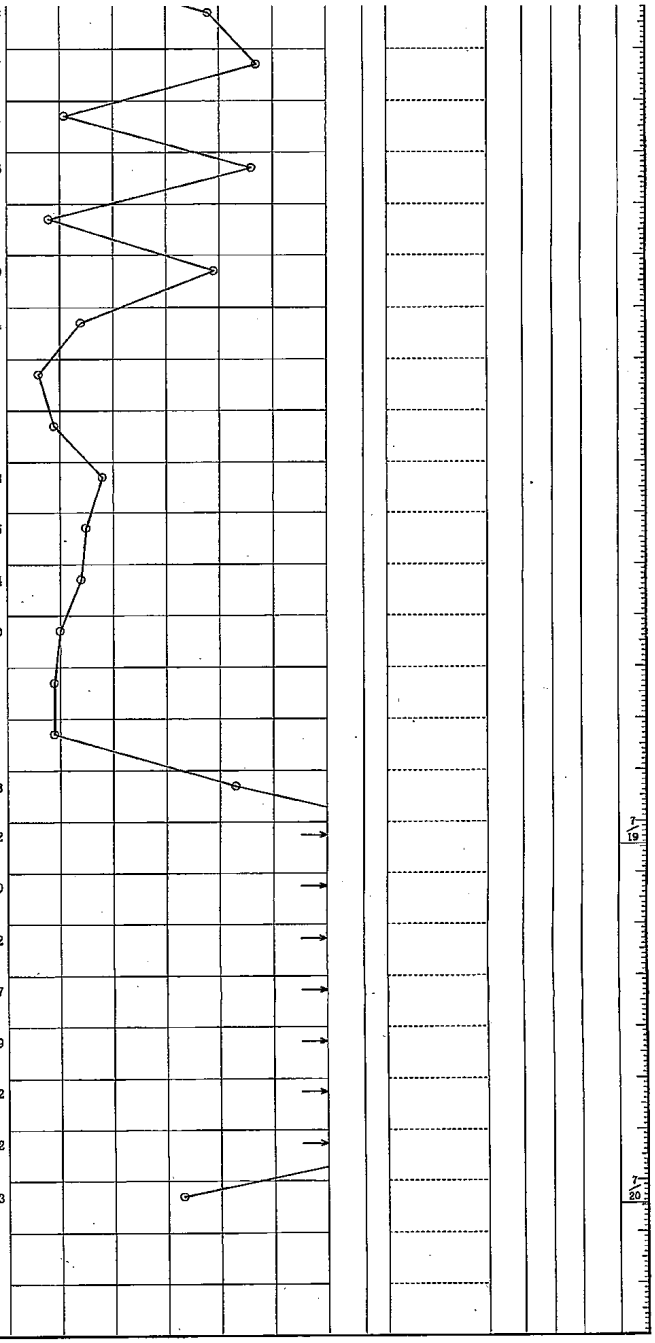
深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)	N値
1.15	1	1	2	4/30	4
1.45 / 2.15	1/20	1/5	1	3/35	3
2.50 / 3.15	4	4	4	12/30	12
3.45 / 4.15	1	1	1	3/30	3
4.45 / 5.15	4	2	3	9/30	9
5.45 / 6.15	2	1	2	5/30	5
6.45 / 7.15	2	2	2	6/30	6
7.45 / 8.15	1	2	2	5/30	5
8.45 / 9.15	2	3	4	9/30	9
9.45 / 10.15	8	8	4	20/30	20
10.45 / 11.15	1	2	2	5/30	5
11.45 / 12.15	2	3	3	8/30	8
12.45 / 13.15	1	2	2	5/30	5
13.45 / 14.15	7	15	16	38	



原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験（ ）	掘進月日
						7/18

-3.78	0.50	14.70	砂礫	暗灰			径2～20mm程度の亜円礫を主体とし、細砂～粗砂をマトリックスとする。
-4.18	0.40	15.10	シルト	暗灰			含水比は「中位」。粘性は「中位」。腐植物を混入する。
-4.58	0.40	15.50	砂礫	暗灰	密な		径2～20mm程度の亜円礫を主体とし、細砂～粗砂をマトリックスとする。
-5.63	1.05	16.55	シルト	暗灰		硬い	含水比は「中位」。粘性は「中位」。上部付近細砂分を混入する。繊維質の腐植物を混入する。
-6.93	1.30	17.85	砂礫	暗灰	密な		径2～20mm程度の亜円礫を主体とし、細砂～粗砂をマトリックスとする。
-7.88	0.95	18.80	シルト	暗灰		中位	含水比は「中位」。粘性は「中位」。所々腐植土の薄層を挟在する。細砂混じり。
-8.88	1.00	19.80	礫混じり砂	暗灰	密な		細砂を主体とし、径2～10mm程度の亜円礫を混入する。所々、微細砂の薄層を挟在する。
-10.03	1.15	20.95	砂	暗灰	緩い		微細砂を主体とし、所々シルトの薄層を挟在する。
-15.08	5.05	26.00	砂混じりシルト	暗灰		中位～非常に硬い	含水比は「低位～中位」。粘性は「中位～低位」。少量の腐植物及び炭化物を混入する。所々、微細砂～シルト質砂層を挟在する。
-18.33	3.25	29.25	シルト	暗灰		硬い	含水比は「低位～中位」。粘性は「強い」。少量の炭化物を混入する。深度27m付近にて貝殻片を混入する。深度28m付近微細砂の薄層を挟在する。
-20.69	2.35	31.60	砂礫	暗灰	非常に密な		径2～20mm程度の亜円礫を主体とし、細砂～粗砂をマトリックスとする。深度29.25～29.35m付近微細砂層を挟在する。
-21.28	0.60	32.20	シルト	暗灰			含水比は「低位」。粘性は「強い」。一部、腐植土層の薄層を挟在する。
-25.68	4.40	36.60	砂礫	暗灰	非常に密な		径2～20mm程度の亜円礫を主体とし、細砂～粗砂をマトリックスとする。礫の最大径30mm程度。所々礫分少なく礫混じり砂状を呈する部分あり。
-26.53	0.85	37.45	砂	暗灰	密な		微細砂を主体とし、一部シルトの薄層を挟在する。

14.45				30	38
15.15	15	17	16	47/30	47
15.45					
16.15	4	3	4	11/30	11
16.45					
17.15	18	12	16	46/30	46
17.45					
18.15	2	3	3	8/30	8
18.45					
19.15	11	13	15	39/30	39
19.45					
20.15	3	5	6	14/30	14
20.45					
21.15	2	2	2	6/30	6
21.45					
22.15	2	3	4	9/30	9
22.45					
23.15	5	6	7	18/30	18
23.45					
24.15	4	5	6	15/30	15
24.45					
25.15	4	4	6	14/30	14
25.45					
26.15	3	3	4	10/30	10
26.45					
27.15	3	3	3	9/30	9
27.45					
28.15	3	3	3	9/30	9
28.45					
29.15	4	15	24	43/30	43
29.45					
30.15	28	28	4/2	60/22	82
30.37					
31.15	29	31		60/20	90
31.35					
32.15	14	26	20/5	60/25	72
32.40					
33.15	26	18	16/7	60/27	67
33.42					
34.15	22	20	18/6	60/26	69
34.41					
35.15	26	26	8/2	60/22	82
35.37					
36.15	25	28	7/2	60/22	82
36.37					
37.15	8	11	14	33/30	33
37.45					



ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名　（BMは、北館のフロアーレベルを11.10mとする）

ボーリングNo	5

シートNo　5

ボーリング名	B-No.5	調査位置	静岡県静岡市　葵区北安東　地先			北緯	35° 0' 12.0"
発注機関				調査期間	平成 17年 7月 30日 ～ 17年 8月 8日	東経	138° 23' 9.0"
調査業者名				現場代理人		コア鑑定者	ボーリング責任者
孔口標高	10.81m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 水平0° 90° 0°
総掘進長	37.50m	使用機種	試錐機	KR-100	ハンマー落下用具	半自動落下装置	
			エンジン	NFD-9	ポンプ	V-4	

標尺(m)	標高(m)	層厚(m)	深度(m)	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
1								
2				盛土	黄褐～灰褐～暗灰			GL-1.30mまでシルト主体とし、50～200mmのコンクリートガラを混在。GL-1.30～GL-2.00m迄は径2～30mmの亜円礫を混在するシルト質砂礫状。GL-2.00～GL-2.70m迄は玉石を混在するシルト質砂礫状。GL-2.70～GL-5.70m迄は径2～40mmの亜円礫を混在する礫混じり砂質シルト状。GL-5.70～GL-7.25m迄は径2～40mmの亜角礫を混在するシルト混じり砂礫状。下部にてコンクリート片が確認される。GL-6.70mより全逸水。
3								
4								
5								
6								
7	3.56	7.25	7.25					
8	2.81	0.75	8.00	砂	暗灰			細砂を主体とし、径2～5mmの細礫を密集的に少量混在。中砂～粗砂を主体とし、腐植物を少量混入。
	2.31	0.50	8.50	シルト	暗灰		中位	腐植物を混入し、部分的に腐植土質状を化す。含水比は「中位」。粘性は「弱い」。
9	1.11	1.20	9.70	砂礫	暗灰	密な		径2～20mmの亜円礫を主体とし、細砂～粗砂をマトリックスとする。
10	0.11	1.00	10.70	礫混じり砂	暗灰	中ぐらい		細砂を主体とし、2～10mmの亜円礫を密集的に混在。
11	-0.69	0.80	11.50	シルト	暗灰		軟らかい	腐植物を混入し、部分的に腐植土質状を化す。含水比は「中位」。粘性は中位」。
	-0.99	0.30	11.80	砂	暗灰			細砂を主体とする。
12	-2.29	1.30	13.10	砂礫	暗灰	密な		径2～20mm程度の亜円礫を主体とし、細～粗砂をマトリックスとする。
13	-2.99	0.70	13.80	シルト質砂	暗灰	緩い		細砂をやや優勢とするシルトとの互層を呈する。
14	-3.84	0.85	14.65	砂礫	暗灰	密な		径2～20mm程度の亜円礫を主体とし、細～粗砂をマトリックスとする。
	-4.14	0.30	14.95	砂質シルト	暗灰			上部はシルト優勢、下降的に細砂増量傾向。含水は「中位」。粘性は「中位」。
15	-4.39	0.25	15.20					
	-4.99	0.60	15.80	砂礫	暗灰			径2～20mmの亜円礫を主体とし、細～粗砂をマトリックスとする。
16	-5.59	0.60	16.40	砂	暗灰			細砂を主体とする。
17	-6.89	1.30	17.70	砂混じりシルト	暗灰			上部にて細砂をシーム状に少量挟在。含水比は「中位」。粘性は「中位」。
				砂礫	暗灰	密な		径2～20mmの亜円礫を主体とし、細砂～粗砂をマトリックスとする。
18	-7.79	0.90	18.60	シルト質砂	暗灰	中ぐらい		シルトと細砂との互層状を呈する。
19	-8.99	1.20	19.80	礫混じり砂	暗灰	密な		細砂を主体とし、径2～30mmの亜円礫を混乳する。
20	-10.09	1.10	20.90	シルト混じり砂	暗灰	中ぐらい		細砂を主体とし、シルトをシーム状に少量挟在。
21								
22	-11.99	1.90	22.80	シルト	暗灰		中位	均質なるシルト。GL-22.00mより腐植物を少量混入。含水比は「中位」。粘性は「中位」。
23	-12.99	1.00	23.80	砂	暗灰	中ぐらい		微細砂を主体とする。
24				シルト質砂	暗灰	中ぐらい		シルトと細砂との互層状を呈する。
25	-14.79	1.80	25.60					
26								
27				シルト	暗灰		硬い	比較的均質である。GL-27.00m付近より貝殻片を混入。GL-27.90mより細砂をシーム状にて少量挟在。含水比は「中位」。粘性は「

孔内水位(m)／測定月日：7/30 2.70；7/31 4.25

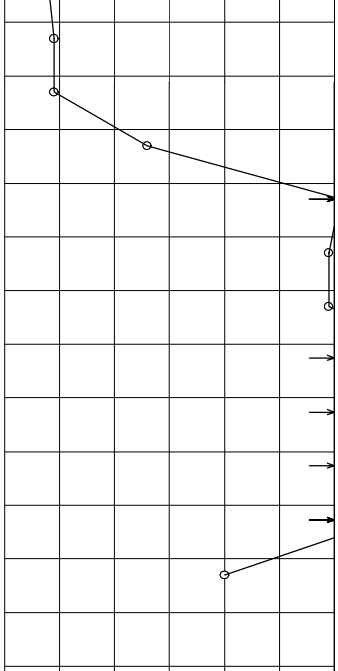
標準貫入試験

深度(m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)	N値
2.15	2	1	1	4/30	4
2.45	2	1	2	5/30	5
3.15					
3.45	1	1	1	3/30	3
4.15					
4.45	1/20	1/15		2/35	2
5.15					
5.50	3	4	5	12/30	12
6.15					
6.45	5	3	6	14/30	14
7.15					
7.45	2	3	3	8/30	8
8.15					
8.45	12	11	10	33/30	33
9.15					
9.45	9	9	7	25/30	25
10.15					
10.45	1	1	2	4/30	4
11.15					
11.45	13	13	13	39/30	39
12.15					
12.45	3	2	3	8/30	8
13.15					
13.45	17	13	14	44/30	44
14.15					
14.45	8	4	6	18/30	18
15.15					
15.45	3	3	6	12/30	12
16.15					
16.45	13	14	10	37/30	37
17.15					
17.45	3	4	5	12/30	12
18.15					
18.45	9	12	15	36/30	36
19.15					
19.45	4	8	9	21/30	21
20.15					
20.45	2	2	2	6/30	6
21.15					
21.45	2	2	2	6/30	6
22.15					
22.45	4	6	8	18/30	18
23.15					
23.45	4	3	5	12/30	12
24.15					
24.45	4	5	5	14/30	14
25.15					
25.45	3	2	3	8/30	8
26.15					
26.45	3	3	3	9/30	9
27.15					
27.45					

原位置試験

深度(m)	試験名および結果
13.10	孔内水平載荷試験 2.83MN/m2
13.70	

試料採取 深度(m)	試料番号	採取方法	室内試験(　)	掘進月日
7.25	P5-1	⊖	簡易粒度試験	7/30
7.45				
10.15	P5-2	⊖	簡易粒度試験	
10.45				
13.15	P5-3	⊖	簡易粒度試験	
13.45				
15.20	P5-4	⊖	簡易粒度試験	
15.45				
18.15	P5-5	⊖	簡易粒度試験	
18.45				
19.15	P5-6	⊖	簡易粒度試験	
19.45				
20.15	P5-7	⊖	簡易粒度試験	7/31
20.45				

27				シルト	暗灰		硬い	比較的均質である。GL-27.00m付近より貝殻片を混入。GL-27.90mより細砂をシーム状にて少量挟在。含水比は「中位」。粘性は「やや強い」。	
28	-17.89	3.10	28.70						
29	-18.44	0.55	29.25	シルト質砂	暗灰			細砂を主体とし、シルトを不均質に混入する。	
30	-19.24	0.80	30.05	砂	暗灰			細砂を主体とする。	
31	-20.69	1.45	31.50	砂礫	暗灰	非常に密な		径2～30mmの亜円礫を主体とし、細砂～粗砂をマトリックスとする。全体に砂分の多い砂礫。	
32	-21.09	0.40	31.90	礫混じり砂	暗灰			径2～30mm程度の亜円礫を少量混在する細砂主体層。	
	-21.34	0.25	32.15	シルト	褐灰			腐植物を少量混入する。含水比は「中位」。粘性は「中位」。	
	-21.79	0.45	32.60	砂	暗灰	非常に密な		均質な細砂を主体とする。	
33									
34				砂礫	暗灰	非常に密な		径2～30mmの亜円礫を主体とし、細砂～粗砂をマトリックスとする。GL-34.00m付近からは砂分やや多い。	
35									
36	-25.69	3.90	36.50						
37	-26.69	0.95	37.45	礫混じり砂	暗灰	密な		径2～30mmの亜円礫を少量混入する細砂を主体とする。	
				シルト質砂	暗灰			細砂を主体とし、シーム状にてシルトを挟在。	
38									
39									

27.15	3	3	3	9/30	9
27.45					
28.15	3	3	3	9/30	9
28.45					
29.15	5	10	11	26/30	26
29.45					
30.15	17	21	23	61/30	61
30.45					
31.15	21	20	18	59/30	59
31.45					
32.15	11	18	30	59/30	59
32.45					
33.15	22	32	6/2	60/22	82
33.37					
34.15	22	28	10/4	60/24	75
34.39					
35.15	22	25	13/4	60/24	75
35.39					
36.15	20	25	15/6	60/26	69
36.41					
37.15	13	17	10	40/30	40
37.45